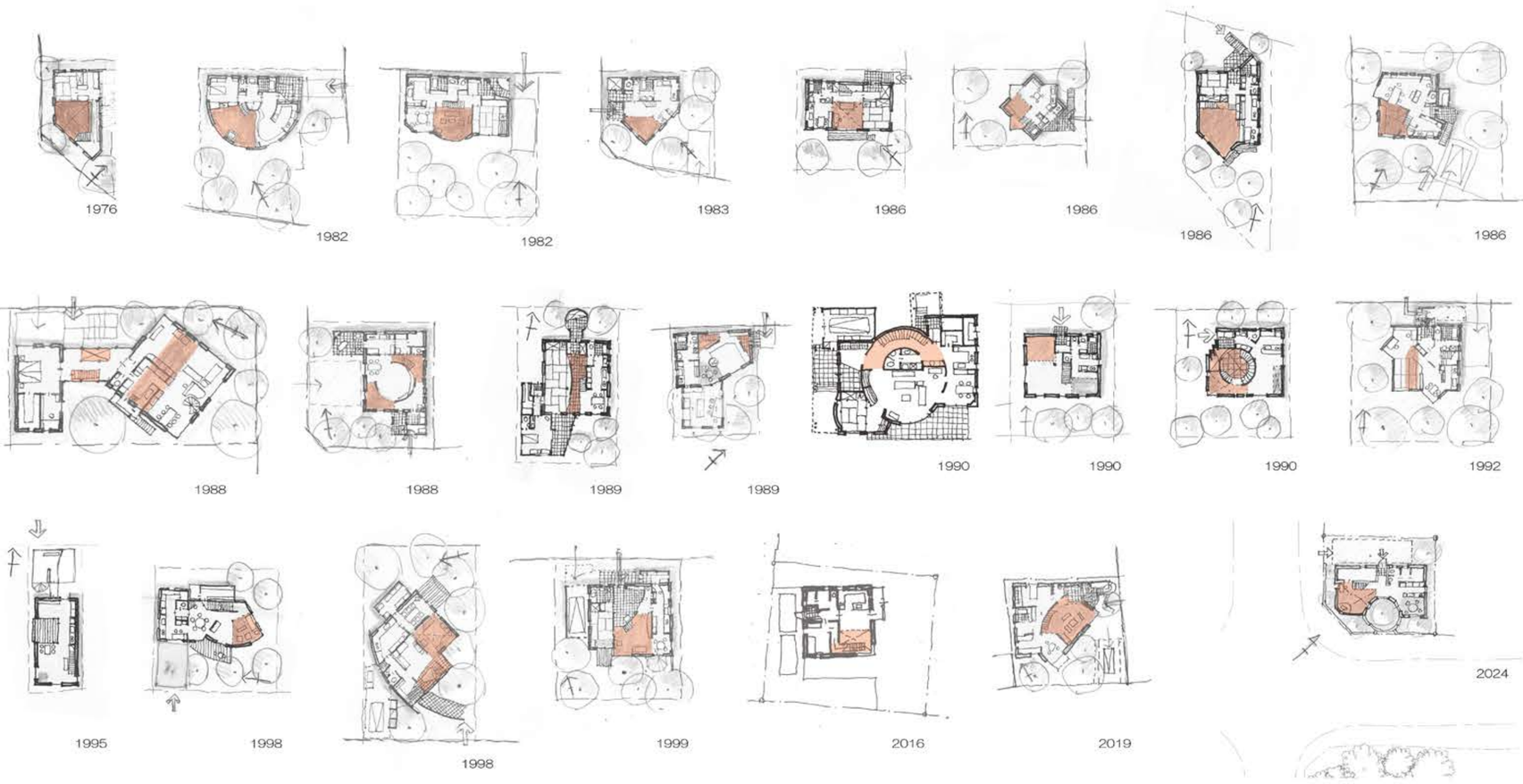
北海道で生まれたブロック住宅　：高嶺の花シリーズ 26　「赤松の見える家」

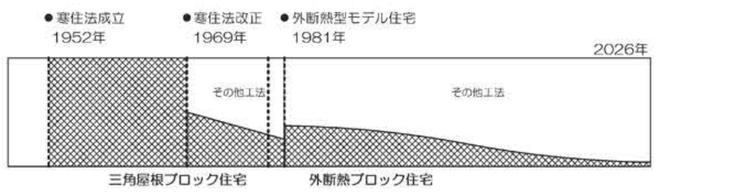
赤松の見える家

私の建てたブロック住宅を見て「ブロック住宅を建てたい」という人が来て、程なく土地が見つかり、ブロック二重積み外断熱住宅の打ち合わせが始まった。ブロック二重積み外断熱住宅の優れているところは、内部のブロック壁の表面温度は、真夏や真冬でも、ほとんど温度が変わることなく約22度位で安定している。さらに冬には、温水床暖房による輻射熱によって、「ほっこり」とした温かになる。極寒の い外から家に入った時に感じる「ほっこり」感を体感しないのは、もったいない。

見つけた土地の向かいの公園の端に、赤松の樹が数本、寄り添うように立ち並んでいた。向かいに建つ家を待っていたかのような風情を感じたことが、この家造りの始まりでだった。この赤松の持つ気持ちをどう受け止めようかと考えているうちに、赤松側のブロック壁中央を、半円形に凹ませ、道路側にブロック壁を半円形に積んで内庭を造った。道路を挟んでいても、寄り添う赤松の林とブロック住宅の間には、呼応し合う感じが生まれ、外部の空間構成要素を受容する住宅、建築を造ることができた。これは、街並みをつくる基になるに違いないと思う。



●1947年 田中敏文北海道知事　●1979年 荒谷登　住宅竣工



1955年頃から、北海道で建てられた多くの三角屋根ブロック住宅

寄り添う赤松の樹

赤松と呼応する凹んだ壁と内庭

「雪と赤松」

雪のなかに見る赤松の緑の葉と幹の紅さは、厳寒のなかで清々しく自立して美しい。

「丸窓」
コーナー役物ブロックで作った20角形の窓枠

「陣地」と呼ばれた
採光と換気のために創ったハイサイドライト

「時雨」しぐれ

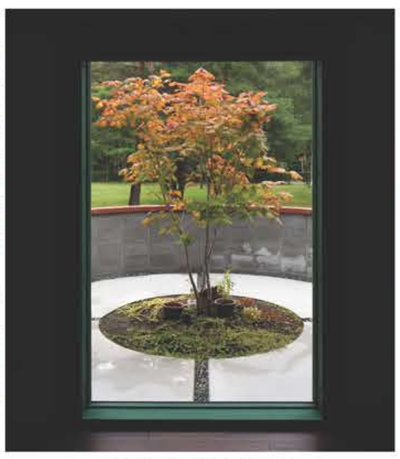
ポーラスにできている軽量コンクリートブロックは、雨が浸み込みやすいので、嫌わるが、ブロックを二重に積む外断熱工法なので、外側のブロックに雨が浸み込んでも、内側のブロックや室内には、全く実害がない。
北海道では、雨が少なく、台風も少ない、雨に晒されたブロックの壁の濡れ具合をいわゆる「景色」と見立てて、
「時雨」と名付け、その風情を楽しむことを勧めている。
ちょうど撮影日に時雨れてくれた。

時雨れた内庭

内庭と楓

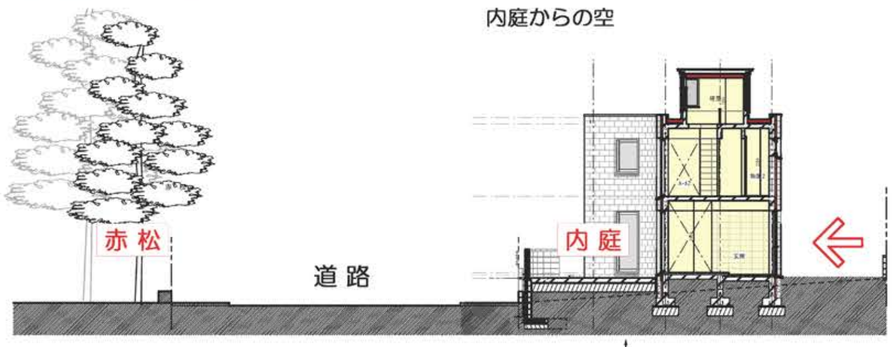
内庭からの空

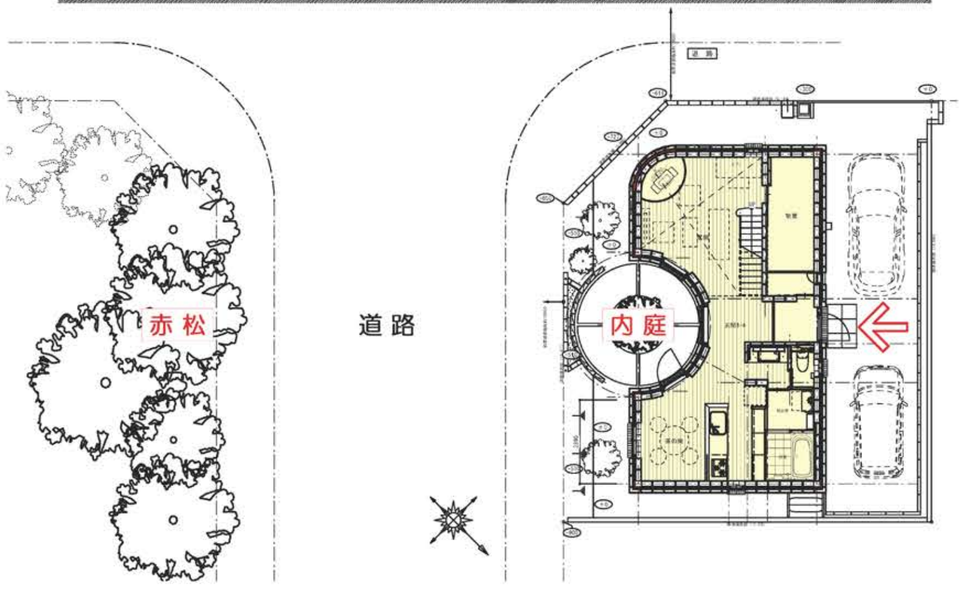
内庭とダイニング



玄関から赤松を見る

内庭と居間吹抜

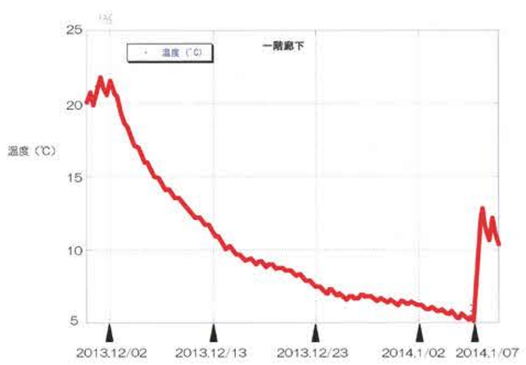




「蓄熱」

外断熱で得た大きな蓄熱量のブロック壁やコンクリート躯体の温度は暖房を止めても、ゆっくりとしか下がらない。そのため、真冬の一ヶ月間、無暖房にしても、室温は、5度より下がらなかった実績がある。北海道が経験したブラックアウト・ホワイトアウトの災害時の避難場所とするができる。

そのために、札幌市内にもっとブロック二重積み外断熱住宅を建てる必要がある。



施設概要

所在地	北海道札幌市
用途	戸建て住宅
建築主	Tさん
設計・監理	アープ建築研究所（圓山　彬雄）
構造設計	英設計事務所
施工	三上建設株式会社
建築面積	69.23㎡
延床面積	105.58㎡
構造・規模	補強コンクリートブロック造 2階建て
竣工	2024 年
撮影	藤塚光政